

リーダーにならない？なれない？

～女性の可能性を拓く～



偏りのない視点で社会の仕組みを考えるためには、意思決定の場に男性と女性の両方がいることが大切です。

しかし、いまだ女性が十分に実力を発揮しにくい現状があります。

一人でも多くの女性が一步踏み出すきっかけになるよう、今回は清瀬市で活躍されている女性リーダーの方々にお話を伺い、背景や私たちの可能性について考えてみました。

4人の
女性リーダーに
インタビュー！

自分らしさを大切に 清瀬市立清瀬第二中学校 校長 荒川 徳子さん



インタビュー File 01

仕事の面白さと続けること

音楽、特に歌が好きで大学の教育学部で学びました。教育実習に行った時、歌で子どもを惹きつけることができたので、教師をやってみようかなと思ったんです。中学3年間で子どもは大きく成長します。本音でぶつかれば一生懸命応えてくれます。一緒に成長できるのが面白いですね。

育児中は大変な時期もありました。子どもを吹奏楽部の練習と一緒に連れて行ったり…。子どもが病気の時は、夫と交替で休みを取って乗り切りました。保育園に慣れるまでは大変でしたが、子どもにとっても良い成長の機会になったのかもしれない。

悔しさも励ましも力に

校長になる時には不安もありました。でも音楽科の教員で校長になっている女性は少ないし、何かできることがあるんじゃないか、誰かがやらなくてはならないならやってみようと思いましたが、悔しかった。一方で、ベテランの先生の中には「あなた管理職に向いている、絶対になりなさい」と言ってくれる人もいました。この言葉はずっと心の中にありましたね。

私の場合、研究会で知り合った音楽科教員から校長になった女性の方を見ていたので、その存在も大きかったですね。

笑顔あふれる学校をつくりたい

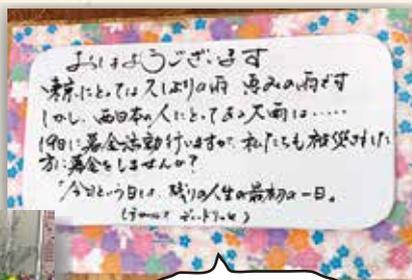
女性が校長になることについては、子どもも保護者も特別な反応もなく受け入れてくれたと思います。今後も「笑顔あふれる学校」をつくっていききたいと思っています。

生徒を育て、先生を育てていきたい。そのためにコミュニケーションを大事にしています。1年生全員に対して一人ずつ面談をするようにして、これまで6

00人の子どもと面談してきました。「子どもも先生も毎日この学校に来たい」そんな学校をつくっていききたいです。

心配するより、まずはやってみて

管理職になることは、責任もあるし、大変なこともあります。でも誰だって自信なんてないし、みんな不安なんです。誰かと比べるから自信がなくなってしまうんじゃないでしょうか。理想の人物像を追い求めるのではなく、自分らしさを大切にしていほしい。自分らしくやると何でも楽しくできます。立場が人を変えます。校長になったら校長の顔になります。心配するより、まずはやってみてほしいですね。(酒井)



毎日、花を飾ったり生徒へのメッセージを書いています！